廐具一覽

壹

和 一七

内	閣	文	庫
類	號	冊	架
和書	一七二五一	三	一五四 函 九

126

[illegible]書冊

武備二ノ三

武備兵法

内閣文庫		
番號	和	17251
冊數	3 (1)	
函號	154	126

154-126

[illegible]貝一覧

一

自叙

夫為畜馬之具也自古多々不能分斑焉故今記千具標目類號厩具一簣矣則是可謂適于得兔而忘蹄之義者歟

日本政府圖書
淺草文庫

文化五歳次戊辰五月
本多藤忠憲識

馬樎

一名 馬槽 艚 差槽 馬舩

古事記安康紀曰侍其大長谷王之御所人等（中畧）拔夫射落其忍齒王乃亦切其身入於馬樎與土等理

和名類聚鈔曰唐韻云槽（音曹 和名 与舟 同）馬槽也

大和物語曰ちりちりてのを

のものこけちゝなとていぬ
たゝのこりさる物ハ馬ふま
のゝなんあまあるそれさは
男のすさまかちといひける
からちをつかひしくこのふ
まをけへこりまをこせさま
蜻蛉日記巻八曰右馬助馬ふ
まきハしとかまけるを例の
文乃端まそけの君まことなる
らそハるふまもるしときこ

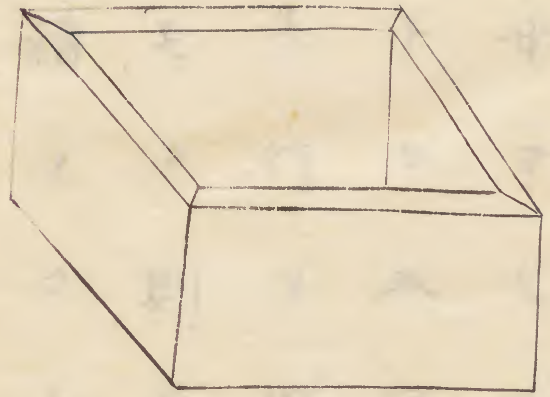
えさせなへとありたすふも
馬ふまハたてさるとこゑあ
りくかゐへをなれなたぬか
らんまわつらハしなもなん
と　畧
御對面記 伊勢貞知記也天正八年十一月十七日 曰馬衣
長サ二尺ひろさ一尺七寸深
サ一尺三寸
京極大双紙 佐々木家書也 曰馬ふまの
長さ三尺なり馬の右なふせ

く置とし
馬具寸法記（伊勢貞為記也）曰まふ多ハ
長サ一尺五寸也セ・ちさ一尺
三寸也ふかさ八寸なり
馬屋道具法量物（記者不知天正年間之書也）曰馬
舩長サ二尺廣サ一尺七寸深
サ一尺三寸あつさ八分
大坪流馬諸事（古書也）曰馬ふ収ハ
長サ一尺九寸なりせちはハ
壱尺三寸なりふかさハ八寸

たるへし
御内書引付（伊勢貞助記也天文年中之書也）曰馬舩
長二尺廣サ一尺七寸深サ一
尺三寸アツサ八分
馬見参入記（記者不詳古書也）曰馬槽をハ
てるの右乃方にふせく置とし
用害記（河村誓真正秀記也永禄八年書也）曰さし舟高
サ八寸横二尺壱寸、卅内ゝし
てふ二寸はゝたをとし
高麗流八条家騎書（中山下野守直好記也）曰

馬槽のなかさ三寸ゟし法報
應の三神を表をまさ二尺八
寸ふしをろなり馬の右よふ
を尼し

馬槽圖



忠憲因山岡俊明ノ説ニ今ノ世ニハサヨミノ布袋ニ秣豆糠ナトヲ入テ遠路旅ナトニ持チ行ヲ俗ニヌカ帒トテ云フモノ則是ナリ馬槽古ハ湯槽ノコトキ物ナリシカイツシカ此頃ハカヽルモノトハナリシト思ハル時ニシタカヒテオモ

ヒハカルヘシ俊明ヘサシク上野国伊香保ノ温泉アミシトテマカリシニ具ワタリニテ馬屋二木ノ中ヲ彫リクボノテ横ニ長キ小舟ノ如キモノニ物入テ馬ニ喰ス是何ソト問ヘハ馬槽ナリト答ヘキ今モ田舎ニハ古語ノ残リテアル也云云憲按ルニ馬槽ハ秣草

ヲ入ルモノ也馬ヲ洗フ盥ヲ馬舟ト云フコトハ世ノ末ノ事也今ノ世木ヲ削リ合セノ箍ヲカケ飯櫃形ナルモノヲ馬盥ト号スルモノハ全ウ馬ヲ洗フモノニシテ此モノ往世ニハ聞モオヨハス后世ノモノ也又馬槽ト云フモノハ安康天皇ノ上古ヨリ見ユレハイト

古キ名ナルモノ也右俊明
ノ説ノコトク遠キ郡縣ナ
トニテ秣ヲ飼フニ木ヲ彫
リテ長サ一尺五寸アマリ
横一尺余ホトアル盥ハ上
古ニイヘル馬槽ノ残レル
制トモイフヘキモノニヤ

馬梳

馬櫛 名刷梳

日本書紀神功皇后紀曰新羅王遥望以為（中畧）伏為飼部其不乾船柂而春秋獻馬梳及馬鞭
延喜古馬寮式曰凡諸国貢繋飼馬各隨馬數備刷梳
當家弓法集（小笠原長秀記 應永年中記）曰刷梯のたのもさ二寸八分也數九ツ

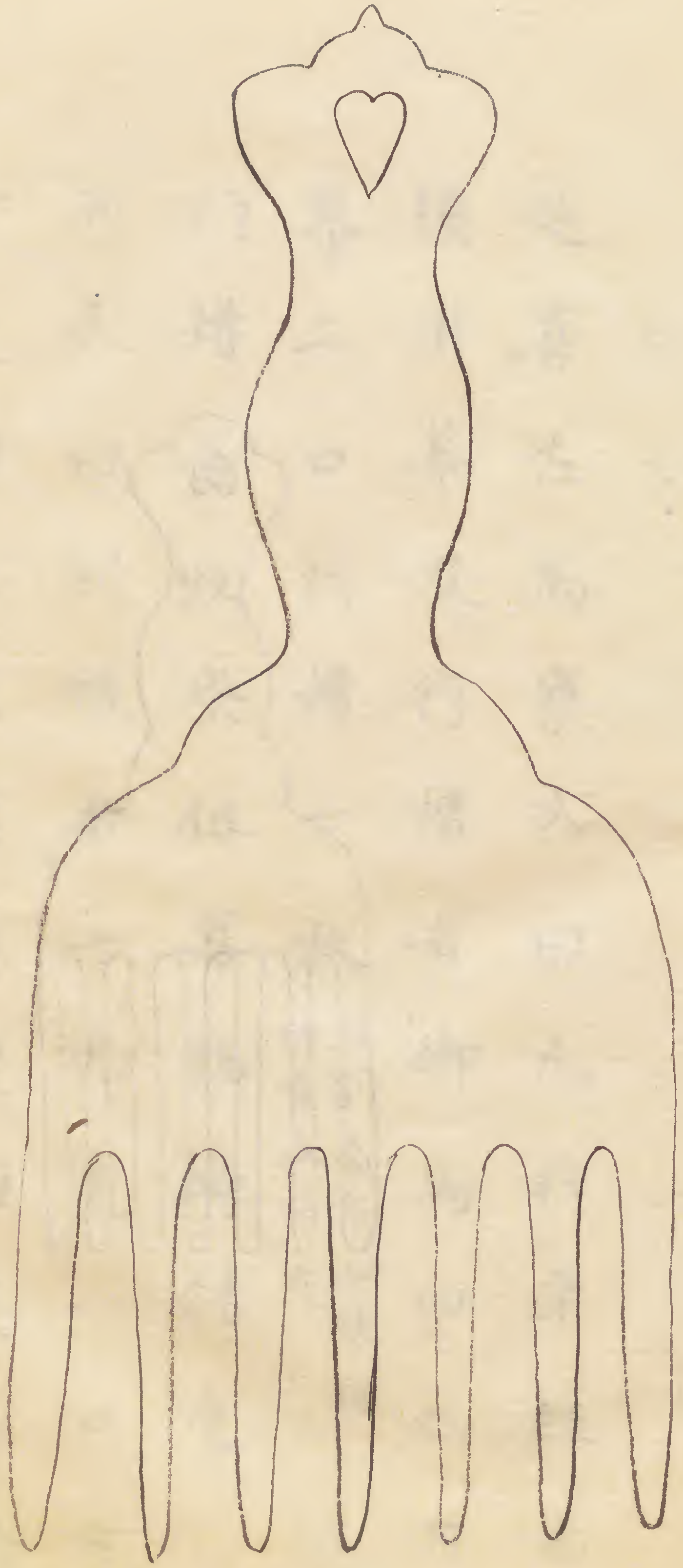
又八十三十五ヨもをへ｜も數
京極大双紙曰馬櫛の寸も
の事をりす八十三長さ八二
寸五分柄の長さ五寸ヨ作る
定｜形ハ定くなるへ｜但を
りす八七も九八をへ｜
高麗流八条家騎書曰馬櫛乃
事歯の數十三長サ五寸ヨ法
くるへ｜但をの數七ヨもを
へ｜定くヨあて

馬具寸法記曰櫛の寸法のる
長サ三寸二分柄ハ四寸也合
く七寸二分廣サ三寸五分也
をを七ツ仕定｜
用害記曰馬く｜長サ六寸二
分ひら四寸を八十一
ち馬聞書（細川藤孝記）曰るく｜八八
寸歯數七ツなり
諸曲直之書（遠江入道心宗正鉄沙弥）曰馬櫛柄
三寸三分牙二寸二分數七ツ

同五ッ
駁馬古實（記者不詳）曰梯の寸長サ三寸二分柄ハ四寸也、合〳〵七寸二分廣サ三寸五分也歯ち七ッちへ〳〵一説云梯の長サ六寸二分ら四寸歯ハ十一又八九ッあり
返答（伊勢万三郎貞助録ㇾ）曰梯八寸法不定
御對面記曰〳〵三寸五分
寸法難々（伊勢因幡如芸記之）曰馬〳〵長六寸廣三寸五分歯の長一寸七分取柄三寸五分厚五分歯の数九ッ寸二もあり又長七寸もありちミ多四ッなり

馬梳圖

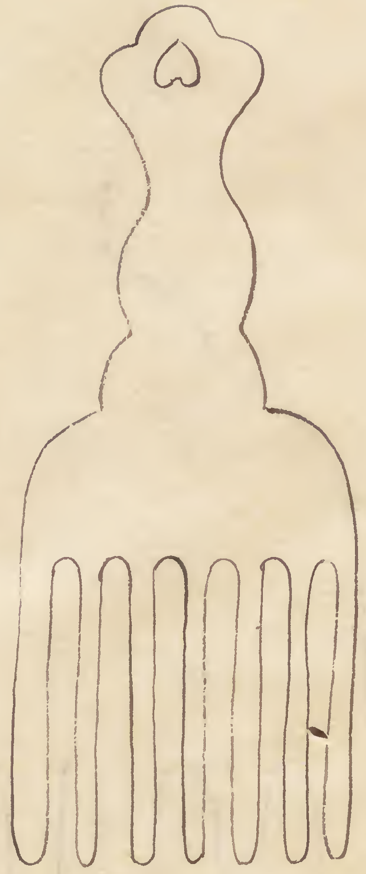
馬之本地所見



剉槽 ◐ 行槽

延喜左馬寮式曰凡行幸經宿須用幕及行槽者御馬四疋布幕二口行槽一枚（枚別商布四段緒料貲麻一斤）其行槽者牧寮但幕臨時請受

同式曰剉槽者十疋、充一口方一丈深二尺若有壞損寮加修理



忠憲曰判槽ハ今俗間ニ云
馬盥ノ類ナルニヤ

剉薙

延喜左馬寮式曰凡諸国貢繋飼馬各随馬数備刷梳剉

倭名類聚鈔曰唐式云剉薙一具 注云漢語抄云久佐岐利剉音麁臥反

櫪　阜

延喜左馬寮式曰櫪長一丈六尺以一艘充二匹

倭名類聚鈔曰唐韻云櫪（音歴和名之岐以太）馬櫪也

年中行事秘抄曰四月廿八日

駒牽事弘仁式云早朝引櫪飼

御馬車駕幸於射場殿

忠憲曰櫪ハ馬ヲ牽キ載ル
トコロノ板也長サ六尺ホ
トニ巾四尺ホトノ板ヲ用
ユヘキニヤ

水桶

延喜左馬寮式曰凡馬水桶㭊
篇及炬松寮斟量儲充

底板

延喜左馬寮式云凡馬底版者
廣一尺厚六寸長一丈一尺疋
別十枚

鞗 一名鼻革

延喜左馬寮式曰凡櫪飼馬籠頭鎖若有破損者取諸国貢馬籠頭鎖充用

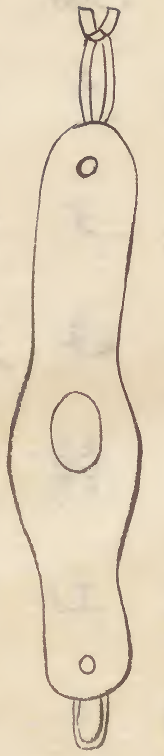
東山殿年中行事曰十二月廿六日鼻革十間進上畠山殿毎年今日如此也

馬見参入記曰鼻皮の長さ一

尺八寸中の廣さ二寸五分也
但馬ヨよるとし
馬具寸法記曰たなゝての寸
長廿一尺二寸なり廣さ二寸
五分也
大坪流馬諸事曰たなか皮の寸
長廿一尺二寸なり廣さ二寸
六分也
馭馬古實曰たなゝての寸長
廿一尺二寸廣さ二寸五分

寸法雑々曰たなゝハ長一尺
八寸法ゝ長二寸五分法ゝあ
なハ法ゝくの中より三寸ちき
くれなしこう孫一尺二寸

圖曰



忠憲ノ曰白石翁ノ説ニ倭名
鈔ニハ幨ノ字ヲ久佐利ト
ヨミテ唐韻ノ草轡也ト云
フ説トモ毛詩注ニ幨ハ金
ヲ以テ小環トナシ往々ニ
纏搔スルモノ也ト云説ヲ
引タリ草轡トイヒ金ヲ以
テ小環トストナト云フ支今
云鼻革ノ制ニ似タルトコ

ロモアレハカクイヘル十
ルヘシ云云土肥経平ノ説
ニ鼻皮ト云フヘキモノ古
ニ見エス今ノ鼻皮ト云フ
ヘキモノヲ面懸ニソヘテ
カゲタル図後三年ノ戦ノ
画ニタヽ一トコロ見エタ
リ昔サシ縄ヲ用ヒシ世ニ
ハ陣中ナトニ鼻皮ハ用ナ
キモノニヤ

廐幕

延喜左馬寮式曰凡行幸經宿
須用幕及行槽者御馬四疋布
幕二口行槽一枚

忠憲曰厩幕一名馬罫連ト
モ云長サ六尺五六寸横五
尺或ハ六尺ト云ヘ憲按ル
ニ厩幕ヲ馬罫連ト云ハ全
ク后ノ世ニ号ケタル名ナ
ルニヤ

杁幕 一名廐幕

延喜左馬寮式曰凡馬氷桶杁
幕及炬松寮斟量儲充
馬見参入記曰廐の幕の长サ
四尺二寸二分
細川弓馬聞書曰馬屋の不ろ
きもさ九尺わひめ九ッ

馬刷 一名刷刀馬刀 竹刀 身刷刀

延喜左馬寮式曰凡諸国貢繋飼馬各随馬數備刷梳剉麻籠頭共進

和名類聚鈔曰漢語抄云馬刷宇麻波太氣 下所劣反

諸書當用抄 北畠家書 曰竹刀長二尺七寸廣一寸八分節數五緒

くゝて長四寸上下の節の上
下八分ツヽ穴ハ八分ゝ節の
内にあり
諸曲直之書曰馬刀三尺一寸
二分同二尺七寸五分
鳥羽殿馬屋日記 記者未詳 曰ハタ
ケ刀二尺二寸
馬具寸法記曰身刷刀の寸二
尺八寸ゝふしを入て竹をけり
る緒を付たし

細川弓馬聞書曰竹刀長さ二
尺八寸ゝ又五分又二尺五寸又二
寸七分緒の付所一ッふせ節
ハ四ッあらハ先二ッの内を
くるたしに本ハくらさる也
又三ッある時ハ先の奴一
ッ内をくる也外の奴ーをハ
おとさぬなるなり
用害記曰竹刀二尺八寸緒ハ
四寸二分

京極大双帋曰馬刀の二尺八
寸よけつり様ハ口傳在先ハ
馬の舌先をまへ一亦三尺
三寸小しきへ一ろつり様ハ
いつれも同前なり云又云
馬刀ハ草ふせきのとをりま
りけく玄色｜らえ又云写た
々けの木二尺五寸なり
當家弓法集（小笠原長秀記 應永年中記也）曰刷刀三
尺九寸二分也

貞助返答（伊勢三郎記之）曰竹刀二尺五
寸亦是より長ク毛節半タル
へシ
的場出次第（記者不知）曰馬こさきは
竹をハ竹刀とはまかたな
かとゝ不中ハ
長基聞書（小笠原家記 應安永和之書也）曰馬刀三
尺一寸二分同二尺七寸五分
高麗流八条家騎書曰馬刀ハ
二尺八寸也削様ハ口傳さき

をとるの古先乃ことくよまな
ふへしまさ三尺三寸よしれ
へしけつり柄ハ同前
馬屋道具法量物曰竹刀二尺
五寸或ハ三尺節ハ不定
弓法萬聞書（多賀高忠記）曰竹刀の長
さ二尺五寸うらのふしとさ
うのふしとにをとをとするなり
うちをぬりてしるし也
馬之本地（記者不詳）曰竹刀の寸法二
尺七寸五分又ハ三尺一寸五
分歯をも付る是畧義也
御内書引付（伊勢貞助所記）曰竹刀二尺
五寸或三尺節ハ不定
大坪流馬諸事曰身なさけ刀
の寸二尺八寸ふし〳〵をゑくみ
を削る法を付る〳〵
御對面記曰竹刀二尺五寸或
三尺又云竹刀二尺五寸小も
又ハ是より長くも不定節ハ

またる尾｜
駄馬古實曰身をさけ刀の寸
二尺八寸ぬ｜を云て作をけ
づり緒を付尾｜緒ハ四寸二
分をヱ
寸添雑々曰たけをさけ長さ
尺八寸又二尺四寸五分又三
尺を寸ぬ｜ミツにとるべ｜
さきハるの乳のなりよい
風呂記、（伊勢因幡如芸記）曰竹たさけと

竹刀といふ事ハあやまりなり
り刀よくるとちさくろこと
はかなあるへき事なかり

圖曰

圖曰

忠憲曰土肥經平ノ説ニ竹刀往古ヨリ産所ノ具ニハ見エタレモ厩ノ具ニハ旧クハ見エス後世ノ名ナルヘシ云云憲按ルニ此説恐ラクハ取カタキニヤ産所ノ具ノ竹刀ト云モノハ日本紀ニ所見ノ竹刀（アヲヒエ）ノ事也馬屋ノ具ニ竹刀ト云ルモ

ノ古クハ見エス記ニタヒ
ほ和名鈔オヨヒ諸書當用
抄等ニ此モノ見ユレハ全
ク后世ノモノトモ定ノカ
タキニヤ其用ハ馬ノ毛艶
ヲ直スヘキタメノ具ナル
ニヤ

馬褐 馬衣

倭名類聚鈔曰左傳註云馬褐
和名無麻岐沼
右貫条々 伊勢貞順記 馬破也曰馬きぬきす
时は不定寒きころよりきれ
るなり十月より二月まくと
もいふ京極大双帋曰きぬの長さ五

尺但四尺五寸四尺三寸ふし
をへしめ那定芸子のたけよ
上るをし尾上よりゝるをハ
赤返しくきぬの中へ届ねと
にをへし賞玩の染様ハ石た
ゝく色ハをよきなり但染や
うハ其外色くさるをし
大坪流馬諸事曰きせきぬの
寸法三尺八寸の数ハ五のふ
はゝゝけゝく縫ふ也

馬具寸法記曰きせきぬの寸
法の事三尺八寸幅ハ五幅よ
はゝけくぬふをきなり
高麗流ハ条家騎書曰衣の長
さ五尺四寸三寸七吉但馬の
たけよりよるをし尾の上へ急
をハおをしてきぬの中程へ
さゝく挟よをへし賞玩の染
様ハ石たゝゝ色ハ萌黄なり
いろくたるをし

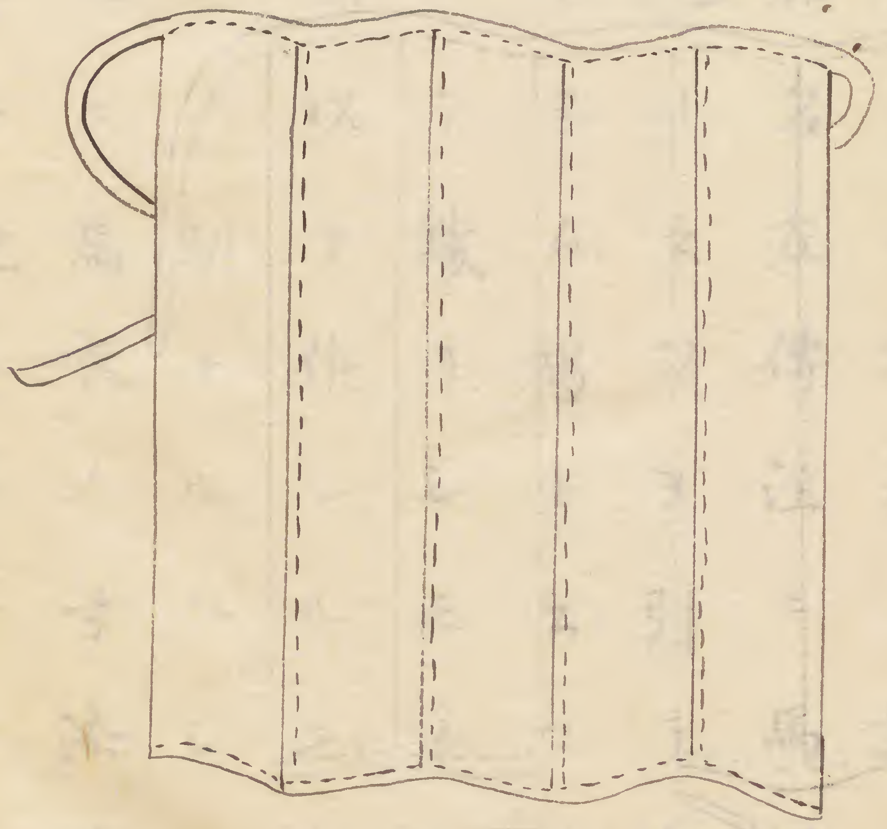
馭馬古實曰きせきぬの寸法三尺八寸五幅つゝけてぬふへし

貞順古實集巻下（伊勢駿河守記）曰馬きぬをハ一間の分と申れ又一疋の分とも申れなり

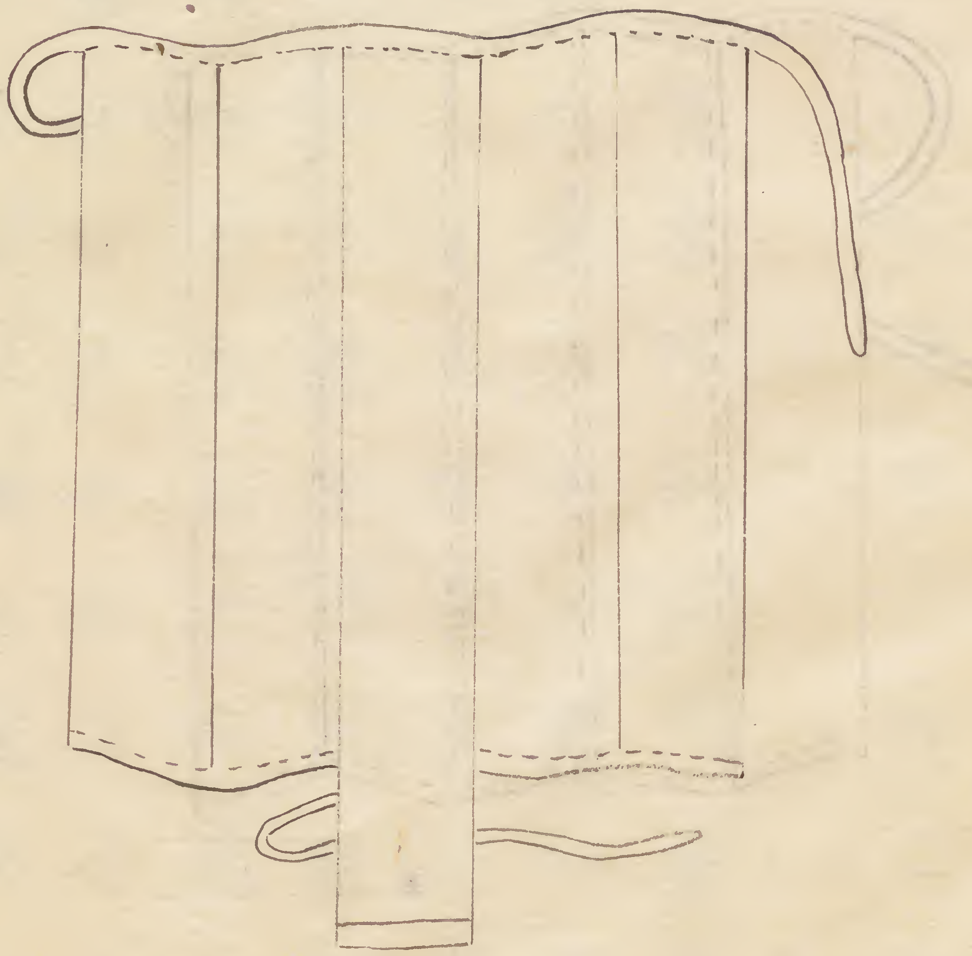
同古實聞書条々（同人記）曰馬衣をハ一反のなといふへきります一疋の分と申人もいり

馬法聞書（海辺孫三郎兵衛尉記之）曰馬衣の長さ五尺まさハ四尺五寸又もある也如此定法といへとも馬のたけによるへし尾の上へ廻る結ハ打延して結の中へさゝく不とにすへし當流の染様ハ石たゝみ延ハ毛元きなり其外ハいろく有へし

圖曰



圖曰



忠憲曰白石翁ノ説ニ馬衣ハ和名左傳注ニ馬褐ハ馬被也ト云フヲ引テ無麻岐沼トヨムト褐ト云フ時ハ今麻ニテ織リシモノツヽレ世帛ヲ以テ作レルモノハ近キ世ノ制ナルヘシ云々憲按ルニ馬衣ノ寸法諸書ニ委シク記シタレトモ必竟

八馬尺ニ相應シテ造レル車コソ然ルヘキニヤ

秣

倭名類聚鈔曰漢書注云秣音末和名万久佐謂以粟米飼之

忠憲曰往昔ハ青麦大豆ヲ飼ヒシ事延喜ノ式ニ視レハ豆ノ葉又ハ豆ノ莖ナトヲ切テ飼ツモノタ統秣トハ云フニヤ

蒭

倭名類聚鈔曰説文云蒭音雛字亦作芻和名加良久佐乾草也

忠憲曰萄ハ今世ニ云苅萑
豆ノ類ナルニヤ

罾祟

倭名類聚鈔曰辨也立成云罾祟和名加分奈波上音古縣反取馬繩也

柳

倭名類聚鈔曰唐韻云柳力浪反和名與岁波

訖之繋馬柱也

忠憲曰柳ハ今ノ世厩ノ左
右ニ鐶ヲウチテ馬ヲ繋キ
置ク柱ノコトナルニヤ

絆　帛

倭名類聚鈔曰釋名云絆半也物使半行不得自縱也音半和名保太之

忠憲曰荒井白石ノ説ニ足懸トハ云フモノハ和名鈔ニ絆トカキテ保太之トヨメルモノニヤ羈靮ハ馬絆足也ト見エタレハ此字ヲ用フヘシヤ云云山岡俊明ノ説ニ絆ハ馬ヲ動カサヌモノ也馬ノ前ノ足ヲユハヘテ動カサカルヲ云也今俗

ノ芝繋トモ云是ナルニヤ云
云伊勢貞丈ノ説ニ馬ノ尻
しがい牛ノ鼻縄ニ對シテ
フモタシト云フハ則ホク
シナルヘシフモノ及ホニ
カヨフ也

凢橋刀 凢歩刀 一名凢歩庖丁

諸書當用抜曰凢歩刀身長八
寸廣一寸八分柄長六寸
當家弓法集曰凢歩刀の寸法
九寸三分廣さ三寸一分なり
御對面記曰凢歩刀七寸ヒラ
二寸ツカ七寸又云寸不定人
の所好によるる

大坪流馬諸事曰凡歩刀の長
サ四寸五分廣サ一寸五分也
柄ハ六寸ヌを為し
京極大双紙曰凡歩刀の長サ
七寸五分ばかり是ハ双廣也ゝ
らをこしらゆる刀ハ四寸五
分也是ハちゝせたし長さむ
きくばかり但六寸五分五寸五
分是ハ裏をきの柄ばかり長さ
ちゝのころさ六寸五分ばかり

馬具寸法記曰凡うち刀の長
サ四寸五分廣サ一寸五分也
柄ハ法寸ふとるし
鳥羽殿馬屋日記曰刀ハ八寸
ニツクリテ五分サキヲ折ヘ
ミ或ハ一尺八寸廣一寸二分
御内書引付曰凡歩刀七寸上
ラ二寸ツカ九寸
貞助返答曰刀ハ寸法人の好
ヌよろ

馬屋道具法量物曰爪赤刀七寸ひら二寸柄九寸
用害記曰爪赤刀四寸二分はか六寸
高麗流八条家騎書曰爪赤刀長廿七寸五分也幅ひろかるなし
弓法萬聞書曰はぬうち刀のなかさ六寸斗
細川弓馬聞書曰爪赤刀一尺二寸刀四寸五分
馬之本地曰爪赤刀の寸法長廿九寸三分廣三寸一分也
駁馬古實曰爪赤刀の長廿四寸五分廣廿一寸五分柄八六寸小をなし
寸法雜々曰爪赤刀長七寸たひら一寸三分もとをへもなしかけわミせくうつなし又長六寸もありはかの長四寸

二分

爪赤刀圖 馬之本地所見

圖曰

爪檮槌

當家弓法集曰爪打槌の寸法頭の太サ九寸二分長二寸一分柄ノ長サ八分也京極大双紙曰爪打槌の頭長さ二寸五分也柄の長サ七寸五分也六寸五分ハしきろ

異本古実条々伊勢家記曰爪打槌

の長サ寸法一尺二寸のうち
也かしらのたけ二寸五分円
かしらの奴とさ二寸なりま
さ為の長サ九寸五分の内三
分云なさきヌ事つるへし為
の削柄中さふとくけつるへ
しかしら奴とさ二寸足も中
ふとに削へし
貞助返答曰槌ハ二寸八分又
八三寸人〳〵の好ヌよるへし

柄の分六寸五分七寸
用害記曰凢ホ法ちふとさ四
寸二分かしらひら二寸又と
と六寸
鳥羽殿馬屋日記曰凢ホツチ
ノ長サ三寸大サ一尺五分柄
ノタサ一尺カタ本ノサイツ
千
馬屋道具法量物曰凢ホ槌二
寸三分四方柄の分七寸

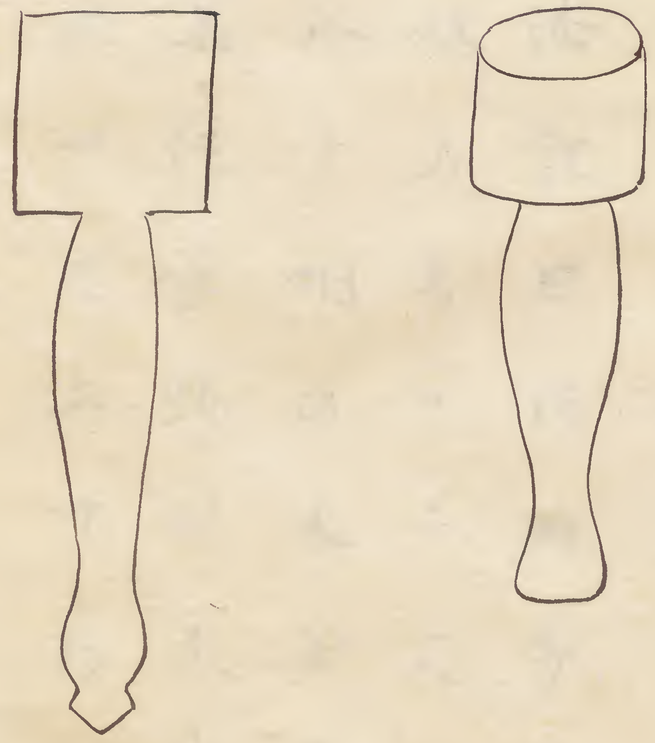
高麗流八条家騎書曰凡打槌の車頭の寸三寸五分柄ノ長サ七寸五分六寸五分なり
諸曲直之書曰凡打槌頭一寸八分同返ヽ柄六寸七分以上合長八寸五分
弓法萬聞書曰凡打つちの長さ一尺二寸かしらのたけ二サ五分同以のふとさ二寸を縁り点のあかさ九寸五分の内三分ひかさきにつる也点のけつり様お中不とをふとくそる也かしらの中を女しふとくをる也
細川弓馬聞書曰凡打槌長尺二寸郎の内二寸一分切目二寸一分点をは中を不そくをへし鋲付色し
馬具寸法記曰凡打槌の寸まハり八寸長廿一尺二寸はち

の方二寸五分甚下より一寸迄
て竹のふしをへし
御内書引付曰爪歩槌二寸三
分四方忽の分七寸
馬之本地曰爪歩槌の長二寸
一分柄ノ長九寸八分也
大坪流馬諸事曰爪歩槌の寸
廻り八寸長サ一尺二寸はち
の方二寸五分此下より一寸迄
竹のふしをへし

御對面記曰爪歩槌四寸一分
柄七寸
今川大双紙畧本（今川貞世記之）曰爪歩
つちの寸乃事上二寸二分下
八寸
馭馬古実曰爪歩槌の寸まハ
り八分長サ一尺二寸はちの
かさ二寸五分そ下より一寸を
きて竹乃婦しをへし
寸法雜々曰爪歩槌長さ尺二

すきさりより上弐寸八分又
うち所四尺ほど作りしらの
廻六寸二分先りとをおとせ
首の切口ほくのめを数五つ
なり柄の切口一寸弐分又長
八寸六分なりそころ二寸六
分ほど作木ハりやの木たし
の木かしの木三ツなり又云
弓の爪方槌長三寸切口壱寸
廿分柄壱尺さいはちなる遊

圖曰



爪檮板

馬具寸法記曰はめ歩板の寸
尺乃串板の長サ二尺五寸廣
サ一尺八寸桐の木をそへ｜
馬屋道具法量物曰爪歩板二
尺三寸横一尺五寸あつさ一
寸二分
御内書引付曰爪歩板二尺二

寸ヨコ一尺五寸アツサ一寸
二分
大坪流馬諸事曰爪先板寸尺八板の長サ二尺五寸廣サ一尺八寸きりの木をもへきるなり
馭馬古實曰爪先板の寸尺板の長サ二尺五寸廣一尺八寸桐の木もちゐし
御對面記曰爪先板二尺三寸ヨコ一尺五寸アツサ一寸二分亦云二尺三寸ユケ三尺タケ横一尺五寸タケ厚サ一寸二分又云二尺三寸タケ三尺タケ横一尺五寸タケ厚サ一寸
二分

圖曰

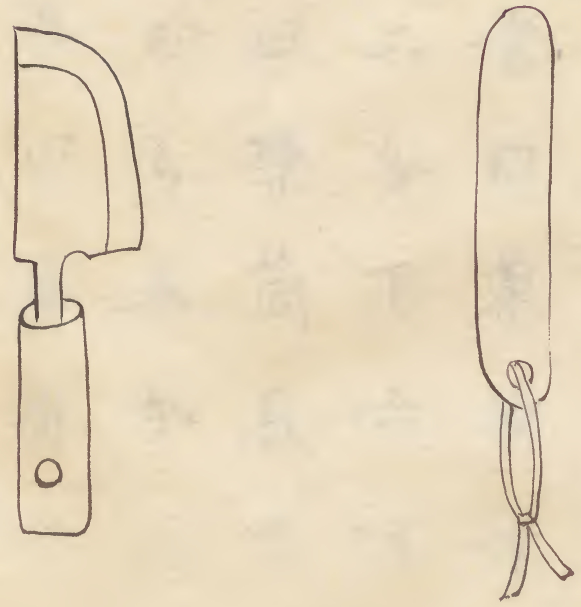
裡拂刀、　裏堀刀

細川弓馬聞書曰うらふり五寸一分うけ木くゝの木か也角ハ悪し丸きハ吉也

大坪流馬諸事曰うらちらむの寸七寸也まき先を平くけはり木ヌハ山うけ木を用ゐべき也

高麗流八条家騎書曰うら掛かゝる刀四寸五分幅狭し但長サ好日上ゝるゟし
用害記曰うらかけ長サ六寸二分
馬具寸法記曰裏掛の寸七寸也又さきをハひらくけつり木よハ山うけ木をとちら可用也
御對面記曰うらかけ鹿角六寸五分
馭馬古實曰うらかけの寸七寸也、又さきを八ひらくけつり木よハやぬうけきとしけちら用ゐき也
寸法雑々曰うらかけ長七寸麻の角

圖曰



藥筒

長基聞書曰藥筒寸法節ヨリ
上四寸二分下六寸三分也
用害記曰藥筒長廿藥加ふ方
四寸藥おち五分
貞助返答曰藥筒一尺二寸節
ヨリ上四寸二分
異本古実条々曰藥筒の寸法

長廿一尺二寸のうち節より
上八四寸ふしより下七寸口
をとくをしとくふんハ一寸
也然くさの簡も大小忌也
鳥羽殿馬屋日記曰葉簡節よ
り上四寸二分口一寸二分
馬屋道具法量物曰葉簡一尺
二寸節より上四寸二分
高麗流八条家騎書曰葉簡の
寸節の上五寸節の下六寸五
分竹のふとさ五寸別極口傳
諸曲直之書曰葉簡の長上四
寸二分下六寸三分
弓法萬聞書曰葉簡の寸法長
さ一尺二寸の内ふし上り上
ハ四寸ぬし上り下ハ七寸く
ちをく一寸そくなり出る竹を
さりさゐよもるゝ大まいむ
るや
細川弓馬聞書曰葉簡一尺二

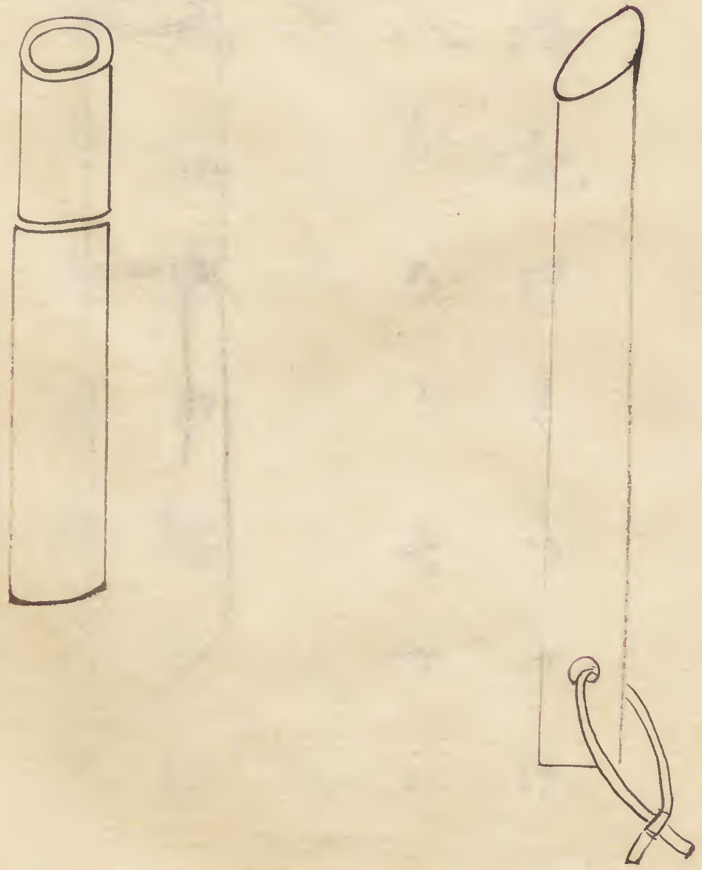
すくそりの入方四寸一分ぬ
しきツ
馬具寸法記曰茉筒のすふし
をこめて切をしふし上り上
の茉乃入りさを八四寸三分
ま切をし下を八六寸ま切を
き也又七寸ふも切る也
御内書引付曰茉筒一尺二寸
節ヨリ上四寸二分
篤之本地曰茉筒之支策ヨリ

上四寸策ヨリ下八寸竹ノ厚
サ一分中ノ口五分以上一尺
二寸六分也
大坪流馬諸事曰茉ハ丶の寸
かふしをこめて切をし下
とか六寸ま切又七寸まし切
ほなり
京極大双子曰茉筒の寸節よ
り上五寸けハり柄ハ口傳る
弁の太サ五寸ぬし上り下六

寸五分也
御對面記曰茱筒一尺二寸節
ヨリ上八四寸二分
寸法雖々曰茱筒八四節ニよ
ヨく殺ろ春ハ长八寸四寸廻り四
寸二分ふ｜貳ツ夏八一尺
五寸まかり五寸二ト奴｜貳
ツ秋八一尺七寸まハり六
寸二分冬八一尺二寸まハ八
冬四寸貳分切口壱寸貳分奴

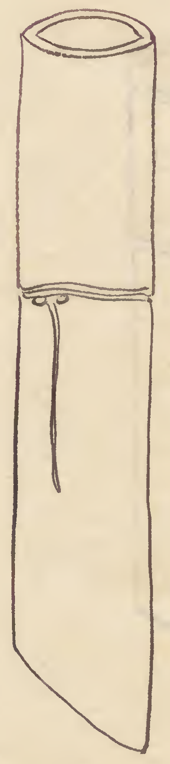
｜の乃四寸よヨ上点ニ二寸
つゝく寸ヨとち四寸五分ふ
｜三ツ切口ニひと奴｜佉め
てそき口ニ作るり女竹ニて
作ゟ｜｜口傳

圖口



鞍懸

馬具寸法記曰くらかけの高
サ三尺八分かりちサ八同こ
とくるり
大坪流馬諸事日鞍かけの高
サ三尺八分也ちサ八同こと
く也



鼻捻

弓法萬聞書曰たな孫ちの長サ一尺七寸ちかりなり高麗流八条家騎書曰鼻捻のながさを尺三寸也貞助返答曰たれ孫ち一尺八寸続八三くり続長六寸用害記曰鼻ひ孫り一尺二寸

絃ハ一尺二寸
御對面記曰もるふち一尺八
寸絃ハ三ツくり三寸アトヲ
トヲスヘシ又る絃ハ三ツく
り長サ六寸

圖曰

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan